

「土屋郷土史」の発刊にあたって

平塚市土屋地区は、平塚市・湘南地区の「奥座敷」また一名「軽井沢」とも言われています。緑豊かな里山に囲まれ、幾重にも谷間が存在しており、土屋小学校の校歌の一節にも歌われているように「笹龍胆の古き歴史に」と、鎌倉時代源頼朝が幕府を開くとき「土屋にしようか、鎌倉にしようか。」と思案したということが伝えられています。

土屋一族の墓があり、土屋の館跡があり、神社・寺院等古き歴史を持つ数々の遺跡が地区内に存在しております。

私たちの祖先がこの歴史・文化・伝統を受け継いで、今日まで土屋の発展に日夜努力してこられたことは、本当に頭の下がる思いです。

この土屋も、近代社会の発展とともに昭和20年（1945）終戦以降大分変化しております。いま「土屋の歴史と歩み」を掘り起こし、土屋に居住する人たちが郷土に誇りを持ち郷土を愛し、土屋の歴史・文化・伝統を後世に伝えていくことが大切であり、今この土屋で生きている我々の責務ではないかと考えていました。

土屋公民館創設30年に当たり、その記念事業のひとつにもと地区有志が集まり「ささりんどうクラブ」なるものを発足させ、昭和53年（1978）8月関野勝久氏がまとめられた「土屋郷土史」を原本として、種々検討を重ね研究した結果を発刊して、何らかの心の支え・郷土を歩かれるときの参考資料にして頂けたら幸いと思っています。

郷土の歴史には、いろいろな説がありますが、一説とご理解願ひ、至らぬところをご教示いただければ幸いです。よろしくお願い致します。

平塚市立土屋公民館

館長 蓑島 武夫

